

## 新しい発展へ

日本熱測定学会会長 大塚良平  
早稲田大学理工学部教授



本学会として昨年度の最も大きい課題でありました第5回国際熱分析会議が無事終了しましたことはご同慶の至りです。先日、手元に届きましたICTAのNewsletterを見ましても、また海外から個人的に寄せられる手紙によりまして、いずれも会議運営の円滑かつ正確な点、会場のすばらしさなどに賞讃の声がかれます。この会議の準備段階から最後まで関係した者の一人として、私は肩の荷をおろしたホッとした気持ちと同時に、この会議のためにいかに多くの人々のご協力をいただいたことだろうと深い感慨に打たれます。

本学会の大きな特徴はその学問の性質上、国際交流が大変活発なことであり、毎年の討論会に世界各国から第一級の学者が招待講演のため招かれているのもその一つの証左であります。さらに今回の国際会議により、本学会はその存在を各国の関係学会および研究者にはっきりと印象づけましたし、また国際的に一段と重要な位置を占めるようになったことは申すまでもありません。現在本学会はIUPAC, ICTA, CODATAなどの国際学会組織と14の各国熱測定学会と協力関係にあります。今回はさらにICTAの規約改正により本学会から正式にCouncil memberを送ることになっております。

このような状況にありますので会員各位が先日の国際会議で得られました各国の知己とますます親交を深められ、国際的な研究活動をますます活発にされんことを祈って止みません。

ひるがえって国内に目を向けますと研究分野に新しい動きが認められます。それは生化学の領域における熱測定のみざましい発展です。昨年5月、大阪で開催された第2回熱測定講習会「ライフサイエンスと熱測定」が非常に好評であったことも、昨年の第13回討論会でこの方面の研究発表が多数にのぼったこともこれを反映するものであります。私たちの生命、日常生活、環境問題に密接な関係のあるこの分野の研究に熱測定が大きな比重

を占めつつあるのは心強い限りであります。その一方、無機化学や地学の分野からの研究発表が少ないうちはいささか淋しい気がいたします。しかし、これは世界的な傾向とはいえないと思います。先日の国際会議での講演申込件数は無機化学部門が一番多く、これに地学の分野を合算すると全体の1/3以上にのぼったぐらいですから、また最近、地学の分野では熱力学がますます重要視されています。すぐれた成書、B. J. Wood and R. G. Eraser: Elementary Thermodynamics for Geologists (1976)や、R. G. Eraser (ed.): Thermodynamics in Geology (1976)が刊行されたり、また貴重な解説、吉野田亮一: 粘土鉱物などの熱化学量、鉱山地質、27, 335 (1977) が紹介されたのもこれを裏付けるものと思います。地学関係の方々为本学会の活動に、より一層関心を払われ、多くの取進を挙げられるようおすすめする次第です。

本学会の特徴は申すまでもなく学会が非常に多岐にわたる専門分野の方々から成立していることです。ですから他分野の知識が得られ広い視野を持つことができ、何よりも多くの分野の方々を知り合い、情報を交換できるという非常に大きな利点があります。しかし一方各自がそれぞれ所属する親学会があるわけですから、学会の運営にあたる役員各位は二重、三重の負担を強いられるわけで全くご苦勞様と申すにやうがございません。とくに役員幹事のご努力は大変なもので会員各位の暖かいご支援を心からお願いたします。現在いづれの学会もその運営に苦勞しておられますが、わけでも本学会のような会員数が1000人に満たない学会は財政的に四苦八苦しております。幸い本学会は事務局のみなみなならぬご努力により今まで順調に発展して参りましたが、これとて限度があり、財政的な安定をはかろうと目下の急務であります。これは正会員および維持会員の増加でしか望めず、会員各位のご協力を切にお願いたします。

昨秋から事務局は新設を祈たし、なかなか快晴な場中に表が空きました。と云うお天気の節、お立ち寄り下さるで下ホムな雰囲気をお味下さい。

会員各位のご健康とご研究の発展を祈り上げます